

**武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会**  
**第3回委員会 議事要旨**

日 時：平成 25 年 11 月 19 日（火）午後 6:30～8:30

場 所：かたらいの道市民スペース 会議室

**1. 開会**

**(1) 委員長挨拶**

- ・ 前回の委員会で何について議論したかを確認するために、まずは議事録の確認をお願いしたい。

**■ 事務局**

- ・ 議事録についてご確認いただき、修正があれば今週中にご連絡いただきたい。その後すみやかに HP 等で公開する予定である。

**2. 議事**

**(1) 第2回議事録の確認**

**■ 委員長**

- ・ 前回は視察をした結果の意見交換をした後、論点1「コミュニティの定義」、論点2「コミュニティ協議会のあり方」について意見交換をした。
- ・ 前回の最後に私のまとめたものが議事録 10 ページにある。
- ・ コミュニティ活動は、コミュニティセンター（以下、コミセン。）の管理・運営に集中しがちだが、窓口を通して地域の情報を知ることには大きな意味がある。なお施設のことだけでなく、施設を利用する諸団体を含め、地域全体のことを考えていくのがコミュニティの役割であることを改めて確認した。このため、できるだけコミセンの運営に多くの人に関わるオープンな場にしていかなければならない。それがコミュニティ協議会（以下、協議会。）の役割である。
- ・ これまでコミセンの運営は自主3原則という形で各協議会に任せられ、各地域の状況に合わせて工夫されてきたが、地域のコミュニティ全体を考えたとき、果たしてそれで十分であったかという意見が挙がった。今までの方向性は決して間違っではおらず、それぞれの成果を出してきたと思われるが、今後、地域の中でのコミュニティづくりに関して、協議会がどのような力を発揮できるか、また発揮すべきかが今後の課題である。各協議会が互いに意見を交換し、切磋琢磨していく必要がある。
- ・ 本日は、2議事（4）論点3「コミュニティセンターの位置づけ」と、論点4「地域コミュニティと目的別コミュニティの連携」について意見交換を行いたい。コミセンの位置づけをどう考えるかについて議論しつつ、地域コミュニティという形で協議会やコミセンを中心にやっていく動きと、その他の地域内の様々な目的別のコミュニティ

ィ組織といかに連携していけば良いかが論点である。

- ・ 次回の年内最後の委員会は、行政の役割、行政と市民がどのように関わっていくかについて議論していただきたい。
- ・ 本日は前回の傍聴者意見についても確認していただきながら議論を行いたい。
- ・ 行政が関わりを持っているいくつかの活動について、目的別コミュニティの概要を事務局から説明していただいた上で論議に入りたい。

## (2) 配付資料の説明

―事務局より配布資料について説明

### ■ 委員長

- ・ どの自治体も目的別コミュニティと地域コミュニティのエリアが全てきちんとしているところは少なく、いろいろな経緯でそのエリアには「ずれ」は多くある。ただ改めて見てみると、ずれ方が大きいように思われる。
- ・ 目的別コミュニティという表現で、防災関係、福祉関係、学校関係で設定されているが、その中でコミセンをどのように位置づけて関係を構築していくのかを議論したい。
- ・ 学校、福祉、防災関係に関わっている方もいると思うので、ご発言いただきたい。

### ■ 委員

- ・ 福祉に関してコミセンに限界があることは皆が認識している。
- ・ 境地区などコミセンのない地区があるが、コミセンが二つあり、交互に会合を開く地区もある。
- ・ 居場所の問題において、コミセンと福祉の会が連携できている地域とそうでない地域がある。福祉の会はできるだけコミセンにご理解いただけるように取組んでいるし、コミセンが地域の中心であることから、各目的別コミュニティとの協力の仕方を考えたい。

### ■ 委員

- ・ 青少年問題協議会（以下、青少協）は基本的には市内に 12 ある小学校区での活動を中心とし、各小学校に地区委員会がある。また歴史的にも古く、地域での認知度も高いと思われる。
- ・ 私が所属している青少協では以前から地域のコミセン（けやきコミセン、緑町コミセン）と情報交換を行うことや、イベントの際に手伝いするなど良好な協力関係を築いている。

#### ■ 委員長

- ・ 青少協とコミセンはだいぶ前から連携しているが、地域福祉の会は比較的近年活動を始めた団体であることが異なっている。
- ・ 青少協における中学校区の活動はどうなっているのか。

#### ■ 委員

- ・ 青少協は中学校を中心とした、ブロック会がある。私の所属するブロック会でイベントを開催したこともあったが、最近では、中学生と連携して、校庭の花壇の手入れや、花植えを年2回程やっている。
- ・ 青少協のメンバーで中学校の授業を見学に行ったりしている。中学校 PTA 主催のおやじの会に出席するなどの交流もしている。
- ・ 現在はそれぞれの小学校での活動が中心となっている。

#### ■ 委員長

- ・ 防災関係はいかがか？

#### ■ 委員

- ・ 現在は数ヶ月前に立ち上げた境自主防災会に参画している。
- ・ 境の地区にはコミセンがないため、協議会との関わりは全くない。

#### ■ 委員

- ・ 関前地区では避難所は4カ所ある。関前5丁目が武蔵野市立第二小学校の学区になっており、同校が避難所になっている。第五小学校の学区はほぼ西久保である。第五中学校の学区は西久保と関前である。そのため、関前だけを対象とする避難所は関前南小学校のみである。
- ・ このため、コミセンと同じように学校に対しても連携をとっていく必要があり、現在、第二小学校の校長先生とは協力関係の構築について話し合いをしている。第五小学校とも今後交渉する予定である。

#### ■ 委員

- ・ 「大野田地域防災の会」が結成されて4年になる。当時は江上先生から「コミセンは地域の核にならなければいけない」との話があった。人をつないでおくことが防災に役立つとの考えから、「大野田福祉の会」「緑町コミセン」「けやきコミセン」の3つの組織で「大野田地域防災を考える会」を作り、「大野田地域防災の会」の発足まで3年の準備期間を要した。
- ・ 同会は大野田小学校の学区を中心につくっており、大野田小学校と第四中学校で避難

訓練を行っている。なお、同学区の場合、緑町と北町は市役所前の大通りを挟んでいるため、緑町の市民は避難所である大野田小学校や第四中学校までの避難するために、この大通りを横断する必要がある（大通りは避難物資の輸送道路になり、災害が起きたとき通行不可能となる予定）という課題もある。

- ・ 先日は大野田地域のすべての組織が集まって今後の防災に関する取組について議論した。東日本大震災以来、防災に対する市民や団体の関心が高まっており、かなりの人が集まった。今後も続けていきたい。

#### ■ 委員

- ・ 吉祥寺南町コミセン（以下、南町コミセン。）は防災や学校との連携において苦勞している点はない。
- ・ 南町コミセンは青少協の委員会に出席するが、その逆はない。私は青少協の委員会に出席しているので、そこで聞いた話をコミセンに報告することでの情報共有にとどまっている。
- ・ 防災について、南町コミセンは南町福祉の会と青少協第三地区と一緒に南町防災ネットワークを立ち上げて地域に働きかけている。以前は、南町コミセン自主防災組織を地域向けに持っていたが、現在はその役割を南町防災ネットワークに任せ、主にコミセン館内の防災に取り組んでいる。

#### ■ 副委員長

- ・ 諸団体との連携が十分にできないのは、本来あるべき地域の理想像が共有されていないことが根本にあると思う。コミセンは諸団体との連携を図ろうとしても、各団体の上部団体の都合によって実現できない場合がある。たとえば青少協はいつも小学校で会合を開いて、コミセンとのつながりが全くない状態になってしまうこともある。お互いが共有する地域の理想像がなければ、話し合いの場すら持てないと思われる。

#### ■ 委員長

- ・ 武蔵野市では、協議会がコミセンを中心に活動し、町全体のとりまとめの1つの中心になるとされている。これについて協議会の委員は同様な考えを持っているが、一般市民はあまり認識していない。
- ・ コミセンの位置づけについても、コミセンがコミュニティの中心だととらえる団体もあれば、そうでない団体もある。
- ・ 現状では、他団体のメンバーにあて職的に参加してもらっているコミセンもあれば、それをしていないが結果的にメンバーが同時に他の団体のメンバーでもあるコミセンもある。
- ・ 各目的別団体からみて当て職があるかどうかは別として、地域の団体がコミセンを中

心に集まる状況にあるのか。地域によって状況が異なると思うが、実態はいかがか。

#### ■ 委員

- ・ 関前地区では、コミセンの委員長、地域の有力者に相談して、関前防災会を立ち上げた。同会は各団体と連絡をとり、現在は 72 名の委員がいる。
- ・ コミセンが中心であると考えられる団体は相当あると思われる。

#### ■ 副委員長

- ・ 関前地区では連携がうまくできている。しかしそれは人的な部分に頼っているところが大きく、制度になっていないため、他地域への普及ができていない。

#### ■ 委員

- ・ 結果につながらないのは、人がいないのではなく、人を発掘し努力していく事が重要ではないか。

#### ■ 委員

- ・ 南町防災ネットワークを作ったきっかけは東日本大震災ではなく阪神淡路大震災である。最初は防災パーティを開催し、みんなが集まるきっかけを作ろうとした。人がなかなか集まらなかったが、それでも定例会を継続的に開催してきた。
- ・ 結果的には、東日本大震災により、防災ネットワークへの関心が高まったという側面も有り、努力の結果も重要であるが、人や何らかのきっかけによる側面も大きい。

#### ■ 委員長

- ・ 武蔵野市の条例等ではコミセンの位置づけについて規定していると思われる。コミセンの中心的役割を認識している団体はコミセンとの連携を図ろうとするが、コミセンを意識せずに自分の目的だけに注力してしまう団体もある。これはコミセンがいろいろと取り組んでいるのに市民が知らないのと同様で、コミセンの役割に気づいている団体もあれば、そうでない団体もあるとのことだろう。

#### ■ 事務局

- ・ コミセンとの連携が難しいという面には、行政の影響もあると思われる。
- ・ (聞いた話で裏付けはないが、) 福祉の会を作る際、本来であれば協議会を基盤に福祉の会を組織する発想があったと思われるが、結果的に協議会を基盤とせずに別途組織された。これは当時の協議会とうまく連携が取れなかったことに要因があるかもしれないが、行政はどうしても行政組織に準じて、対応する組織を個別に育てていく傾向が強いように感じる。

#### ■ 委員

- ・ 福祉の会に移行する際の事情なども含め、コミセンとの連携がうまくできていないところもあるが、南町の場合、福祉の会とコミセンがうまく連携できている。

#### ■ 委員

- ・ 団体を立ち上げる際、皆さんは「地域のため」という理念を持っていると思う。地域がこうした団体をどう受け入れるかが非常に重要である。各団体に自分たちが地域の一員として活動していると思ってもらえるようなゆるやかなつながりが必要である。
- ・ 何か立ち上げようとしている団体があった場合、コミセンは地域のために取り組んでいるから地域とつなげていくという意識を持つことが大事である。
- ・ 確かに属人的な部分が多いが団体と団体をつなげるための理念が一致して、それを実現する仕組みができれば良い。

#### ■ 副委員長

- ・ 先ほども申し上げたが、目的別団体は独立性が非常に強く、ほかの団体に吸収されたくない。このため、これらの団体では地域のために一緒に取り組むという概念を排除する感覚が強いと思われる。
- ・ 協議会が既存の組織であるためそれに吸収されたくないと考える団体もある。このため、地域コミュニティの中で一緒に活動するという概念を新たに作る必要があるかもしれない。
- ・ 桜堤ではまだ防災の会が立ち上がっていない。防災の会を立ち上げることが大事か、それとも考え方を共有するネットワークを作ることが大事かについて議論するための勉強会を立ち上げた。この勉強会にすべての活動団体に来ていただき、意識の共有を図った。独立性の強い団体と一緒に活動するためには、新たな枠組みが必要かと考えている。

#### ■ 委員

- ・ 協議会はコミセンという活動拠点をもつが、地域社協や防災の会は全く拠点がない。
- ・ ネットワークをどのように作るかが非常に大事である。拠点がないと非常に動きにくい。

#### ■ 委員長

- ・ 元々、コミセンはそういう意味での拠点だと思う。コミセンを利用する必要がある団体は容易に受け入れられているのか。
- ・ 地域の諸団体がコミセンを中心に連携していくことが比較的うまくできるのであれば

協議会の運営委員会はコミセンの運営に関与するだけではなく、そこに集まる地域の諸団体のネットワークづくりの中心になるのではないか。

■ 委員

- ・ 青少協は学校を利用しているところが多い。

■ 委員長

- ・ 青少協は意識しなければコミセンと離れてしまうことがあるということか。また福祉の会や防災の会はほかに拠点があるとコミセンとの連携が難しくなるか。

■ 委員

- ・ コミセンによって異なると思う。たとえば、総会を開催する際は関係者に開催場所を知らせる必要があるが、コミセンを利用しようと思うと1ヵ月前にならないと借りられない。大きな行事がある場合は、早めに許可するのはいかがか。こうした場合の利用許可の方法を明記すれば、各団体がコミセンに近寄ると思う。
- ・ 関前の場合、福祉の会は定例会を開催する際にコミセンを確保できている。また、認知症予防のために健康麻雀をコミセンと共同で開催している。この結果、通常月2回しか利用できなかった施設を月4回まで利用できるようになった。

■ 委員

- ・ 今のご指摘の内容はその通りであろう。
- ・ 先日、福祉の会の運営委員の研修会があった。グループごとの議論では、福祉の会はコミセンを利用したいが、他の団体と同様に利用手続きが厳しくなっているため、利用できないという課題が挙げられている。
- ・ 南町コミセンでは、福祉の会、青少協や老人会に優先的に使っていただいているので、これらの団体からの信頼を得ている。

■ 副委員長

- ・ 2012年度、第12期「コミュニティのあり方懇談会部会」では、他団体とのかかわりについて検討した。その中、公共的活動団体に対する便宜を図ることに関する議論があった。公共的活動団体の範疇についてはまだ定かではないが、公共的活動団体に十分に配慮することに合意が取れている。対象はたとえば防災組織、福祉の会や青少協などが考えられる。

■ 委員

- ・ コミセンと地域の団体との連携がうまくいくかどうかを左右する要因は人間関係か。

それとも制度か。

#### ■ 委員

- ・ 南町コミセンの場合、運営委員会で話し合いが行われている。地域の団体に優先的に利用してもらうことは数年前から既に制度として確立している。
- ・ たとえば、南町コミセンに印刷機が設置されており、利用者から印刷代を徴収しているが、地域に関わっている団体（主に福祉の会）に対して2枚1円の基準で徴収していた。計算が煩雑であるため、協議会の運営委員会では料金を1枚1円にすることで合意し、福祉の会もそれに賛成した。しかし、印刷費の増加で財務状況が厳しくなることを理由に、福祉の会は同会の定例会で、料金体系を元に戻したいとの要望をコミセン宛に出した。これを受け、先月の運営委員会では1千枚以上の場合、料金を2枚1円にすることに再度変更した。このように、運営委員会で地域団体とのかかわり方を決めている。

#### ■ 副委員長

- ・ 小餅委員が述べたように、個別の問題については個々の場で議論がなされている。しかしコミセンの全体の制度として確立されたわけではない。これがネックになっていると考える。

#### ■ 委員長

- ・ 地域の活動拠点としてのコミセンは地域の団体や個人に実質的に意識されているかどうか非常に重要である。

#### ■ 委員

- ・ 公共的団体にすべて優先的に貸すと、個人が利用できなくなるおそれがある。その調整が難しい。

#### ■ 委員長

- ・ 武蔵野市の施設の方針はどのようになっているか。

#### ■ 事務局

- ・ コミュニティ構想は地域コミュニティの考え方を述べた部分だけではなく、公共施設の配置計画という側面ももっている。その中で、コミュニティにコミセンを作ることによって包括的な施設として活用し、基本的には目的別施設は設けないという考え方をとっている。なお近年、ある程度の分野では目的別施設が作られている。

## ■ 委員長

- ・ 現状では多くの団体は拠点を持たず、コミセンを共有するしかない状況にある。地域がコミセンを中心に連携していくことが武蔵野市の従来の方針である。しかし問題は実質的に機能するかどうかである。
- ・ コミセンの位置づけや地域コミュニティと目的別コミュニティの実態について議論してきた。
- ・ 行政がどうすべきかについては次回議論するが、いろいろな団体を含むコミュニティを取りまとめるうえで、もう少しコミセンの位置づけや目的別コミュニティとの関係のあり方等について考え直す必要があるかと思う。これについて議論していただきたい。

## ■ 委員

- ・ コミュニティのあり方についての検討は非常に良い提言を行っている。コミセンの運営に携わる人たちがこれらの提言を踏襲するよう、行政が比較的強い方針を示す必要があるかと思う。

## ■ 副委員長

- ・ 自主三原則の解釈が属人的になっており、当初の意思がうまく反映されていない部分があると思う。コミュニティ条例の第9条第2項はコミュニティづくりに対して述べたもので、コミセンの管理運営と分けて述べている。すなわち、地域特性が非常に異なるため、地域にあった方法で地域コミュニティの横のつながりを構築することが趣旨である。
- ・ 自主参加というのは、割り当て制ではなく、手を挙げてもらいコミュニティづくりに参加することを意味する。また自主運営も、外部に頼らずに自分たちで運営することを意味する。したがって自主三原則は制限のある内容ではなく、自主三原則のもとでの活動を通じて、自分たちはコミュニティを変えることができることを自主ととらえてほしい。
- ・ 時代や人の問題はあるかもしれないが、コミセンを運営するにあたって、地域との横のつながりを作りながら、武蔵野市のコミュニティが良いと思われるよう、いかにコミュニティを形成していくかについて考えていかなければならない。
- ・ 残念ながら、他団体との連携が自分の団体の自主性が損なわれるような考えをもつ方もいる。皆さんが地域の中で目的別に活動しているという認識を持っていただくことができれば、地域はうまくまとまるかと思う。

## ■ 委員

- ・ 団体を立ち上げるときは、行政との関わりがあった方が良い。

- ・ マンション管理士としての経験にもとづいて話したい。マンション管理組合がうまくいかないとの相談が来る場合、管理組合の運営ルールをつくり、合意形成を図ることを勧める。管理組合の運営がうまくいかない場合、関連法律やマンション管理規約などを組合の総会等で提示しながら合意形成を図っている。
- ・ 自主三原則のもとでコミセンを管理運営した結果、福祉の会や青少協等の団体は各々にコミセンを利用し、団体間の連携ができていない状況になった。これに対し、行政はそろそろ口を出しても良いかと思う。

## ■ 委員

- ・ コミュニティ条例では、地域コミュニティ、目的別コミュニティと電子コミュニティが挙げられている。また目的別コミュニティについては、「福祉、環境、教育、文化、スポーツ等に対する共通の関心に支えられた活動によって形成される人と人とのつながり」と定義し、その支援を唱えている。これはとても素晴らしいことである。
- ・ 目的別コミュニティの定義で例示された分野以外に、防災も入れた方が良い。コミュニティに必要な分野を挙げ、自主三原則に基づいて、市民や団体に取組んでもらう仕組みをつくってはどうか。
- ・ 八幡町が大きく変わったと言われており、親子が集えるスペースと子育て支援チームができたことがその一因と考えられる。なお、こうしたきっかけを作ったのは子育て支援に取り組む地域の思いである。

## ■ 委員長

- ・ 地域に必要とされる活動分野について挙げたほうが良いかもしれない。その挙げ方は条例で定めたり、行政が発表したりすることが考えられる。これは先ほどの両委員の発言の主旨だと思う。
- ・ 副委員長が言ったように、自主三原則は様々な結果をもたらした。自主三原則の原点は、地域のことは行政任せにしないで自分たちで考えて取り組むことである。これはある意味で行政に悪い影響を与えてしまい、行政は何が地域に必要な分野であるかについてすら言わなくなった。行政の役割については次回の検討課題である。
- ・ コミセンが様々な活動の拠点であることと、様々な目的を持った団体もコミュニティづくりの中で緩やかにつながることがコミセンの存在意義である。これに対する理解をどう広げていくかが求められていると思われる。

## ■ 副委員長

- ・ 多くの団体は目的別コミュニティを構成しているとの意識がないことがネックとなり、コミセンとの連携に至っていない。したがって地域を束ねる仕組みをつくる必要があると考えている。

- ・ また次回議論されると思うが、行政が助言できる範囲を定義できれば良い。

#### ■ 委員長

- ・ 地域のために考えるべき課題や取組むべき内容について誰が確認するかということである。全部協議会に任せていいのか。それとも、各目的別団体に与えられた課題について考えるように誰かが伝えるべきか。

#### ■ 委員

- ・ コミセンにも温度差がある。行政に助言してもらったほうが運営しやすいと考えるコミセンもあれば、そうでないコミセンもある。地域によってコミセンのキャパシティや住民の意思等が異なるため、一律のルールではなく、地域の実情に合った取組を行うところが自主三原則の良いところであり、それを守っていききたい。
- ・ コミュニティに関わっている運営委員は自分たちのできることをやっている。コミセンの運営にあたっては、行政に後ろから支援してもらいたいが、最初から何をやるべきかなどについていわれてしまうと、必ずしも対応できない面も出てくる。どこまで行政が指針を出すかについての線引きが難しい。

#### ■ 委員

- ・ 自分たちの団体が立ち上がった際も自主三原則が非常に素晴らしいもので行政に干渉されたくないと考えていた。しかし今は考え方が変わっている。
- ・ もう一度原点に戻ることが大事である。研連などでもう一度コミュニティの基本を話し合って欲しい。また行政にもある程度バックアップしてもらうことが必要である。

#### ■ 事務局

- ・ コミセンに指示するなど行政の関与に関する議論というより、コミュニティのあり方に関する考え方を今年度の委員会で整理してもらいたい。委員会がまとめたものを来年の春頃に市民に提案し、市民の意見を受けて再整理したい。
- ・ 最終的には市民のコミュニティを考える共通の理念が新たに生まれるのであれば、調整計画の検討材料として提示したい。

#### ■ 委員長

- ・ これまでの議論では既に答えが出ている。それを改めて確認し、みんなのものにしていくための仕組みを協議会や行政との関係の中で新たにつくることが課題である。コミュニティ構想の理念をどのように確認していくかということの工夫をこの委員会でいくつか提案して、市民の反応を見ていきたい。

#### ■ 委員

- ・ 二年近くコミセンの窓口業務を担当したり運営委員の仕事に携わったりしたが、コミセンの位置づけが分からなかった。
- ・ 目的別コミュニティはみんなそれぞれが目的を持って活動している。コミセンの場合、運営費及び事業費は行政の補助金が交付されているので連携して活動すればよい。結果的にコミセンを箱物として利用するにしても、市民や目的別コミュニティはコミセンを大いに利用すればいい。
- ・ コミセンは市民や目的別コミュニティからの提案を受け、活動を推進することは良いが、コミセンが意志を持って何かを仕掛けることはすべきではないと思う。

#### ■ 委員長

- ・ 福祉の活動や防災の活動にコミセンが取り組んでいた。やがて目的別団体が現れたときに、コミセンがどうするかという問題がある。コミセンと目的別団体が一緒に取り組むという意見がでたが、どうするのが良いか。

#### ■ 委員

- ・ コミセンで仕掛けて、何かが仕上がってきたら目的別コミュニティに育ててもらい、また新たに仕掛けていくべきと常に話している。

#### ■ 委員長

- ・ コミセンは地域の課題に取り組むために事業を実施している。やがてそれを目的とした活動団体が現れた際、コミセンはまたつなぎ役として活動していく。
- ・ コミセンはほかの団体と連携を取りながら様々な活動に取り組むほうが望ましい。コミセンは他団体を吸収するわけでもない。

#### ■ 委員

- ・ その通りだと思う。コミセンがコーディネータ役として、活動を育てていきある程度軌道に乗ったところで、独立のお手伝いをするのが大切。

#### ■ 委員

- ・ コミセンは「実家」のようなものだと思っている。基本的に各団体は自分たちで活動しているが、日ごろの何気ない挨拶や困った時に頼れるというような、コミセンが各団体とつながっていることで安心を感じてもらえるような存在になると良いと思う。
- ・ 八幡町では「地域を1つの家族」ということを考えている。

#### ■ 副委員長

- ・ 市民活動促進基本計画を作成する際に、コミセンが中間支援的な役割を担うべきとの意見があった。コミセンは直接全部やるということではなく、中間支援的な組織であるべきと思う。それは結果として各団体がコミセンを頼りにする。そういうコミュニティのあり方が地域に共有されれば良い。

#### ■ 事務局

- ・ 福祉、防災などは直接命に係るものであり、コミュニティの基本的な機能である。コミセンが中間的支援であるより主体そのものにとらえている。目的別活動があるから土俵のみ提供すれば良いというのは違っているとも思っている。

#### ■ 委員

- ・ 福祉について福祉の会が取組んでいるので、コミセンから育っていくものではない。コミセンは福祉の会と連携して一緒に取組むものである。

#### ■ 事務局

- ・ コミセンは基軸となる部分で支えないといけない。

#### ■ 委員長

- ・ 次回の行政の役割を含めて議論すべきと考える。

#### ■ 委員

- ・ コミセンとの接点はほとんどなかった。コミセンが地域の拠点であることをほとんど感じられなかった。地域の住民に最低限の情報を伝えてほしい。

#### ■ 副委員長

- ・ 時間はかかるが、協議会の意識を変えていくことが大事である。

#### ■ 委員

- ・ コミセンの中に防災部や福祉部等を設置したほうが良いと思う。考え方としてはそういう運営の仕方が良いのではないか。
- ・ また大きな行事を行う1つの団体ではなかなか難しいため、コミセンは共催という形でやっても良いのではないか。

#### ■ 委員

- ・ 平湯委員がコミセンを実家と例えたが、コミセンはまさに地域の拠点として、又、地域の故郷として位置付けられると嬉しい。

#### ■ 委員

- ・ 地域区分がずれている問題を変えていこうと考えていくか。組織のテリトリーを変えることは自主に任せてできるだろうか。南町のような比較的うまくいっている地域では区分が比較的同一で、団体間の情報共有が容易である。ほかの団体との情報共有をしやすい仕組みを担保する必要がある。
- ・ また地区が違うことが本当に致命的な問題なのか。これについて今後はもう少し検討したほうが良い。

#### ■ 委員長

- ・ 実質的にどこからも面倒が見られない地域が出ている。本当に地域の自主的な取り組みに任せて良いか。次回は行政がどうコミュニティに関わるかについて議論したい。

### 3. その他

#### ■事務局

- ・ 次回は12月17日（火）18時30分より開催する。
- ・ 議題は行政の役割を中心に議論してほしい。
- ・ 予備日1月21日（火）に委員会を開催したいので、予定を確保してほしい。

#### ■ 委員長

- ・ 1月21日（火）に委員会を開催するかどうかについては次回の委員会で相談したい。
- ・ 課題等について整理したうえで議論する会を設けたほうが良いと思うので、まず予定を確保してほしい。

### 4. 閉会

以上